

# アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導 —本を推薦する学習活動を通して—

徳 永 加 代

## 1. アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導とは

平成28年8月26日、中央教育審議会から「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が示された。国語ワーキンググループの審議の取りまとめには、「主体的・対話的で深い学び」の実現について、次のように記されている。(引用中の下線は論者が添えた。以下同様)<sup>(注1)</sup>

国語教育の改善・充実を図るためには、「主体的な学び・対話的で深い学び」の実現に向けて、後述する「アクティブ・ラーニング」の三つの視点に立った授業改善に取り組んでいくことが重要である。言語能力を育成する国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。このため、国語科における「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善とは、「アクティブ・ラーニング」の視点から言語活動を充実させ、子供たちの学びの過程の更なる質の向上を図ることであると言える。

i) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(略)

ii) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(略)

iii) 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、想像したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

つまり、国語科においては、アクティブ・ラーニングの視点「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」から、言語活動を充実させ、学習過程を質的に改善することが求められている。言語活動を行う際の学習過程において、この「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」の視点は、それぞれが独立した学びではなく、相互補完しながら高まっていく。

「読書指導の充実」について、国語ワーキンググループの審議の取りまとめには、

次のように記されている。<sup>〔注2〕</sup>

このため、読書の量を増やすことのみならず、読書の質をも高めることができるよう、国語科において読書指導を改善・充実するとともに、学校図書館と連携した読書活動の充実を図ることが重要である。その際、例えば、指導のねらいに応じて様々な文章を読んだり調べたりするなどの多様な読書活動を指導計画に位置付けることが考えられる。

「様々な文章を読んだり調べたりするなどの多様な読書活動を指導計画に位置付けること」について、注目したい。読書指導は、教科書教材の発展学習として行われるだけではなく、単元の指導目標を実現するのに最もふさわしい読書活動を通して行われなければならない。読書活動を設定するに当たっては、読書活動を行う目的や意図を明確にし、学習者が自らの課題を解決する学習過程となるようにすることが必要である。一人ひとりが課題を設定して読み調べ、互いの知見や考えを伝え合ったり、本を通して作者の考えに触れたりしながら読み広げ、「言葉による見方・考え方」を働かせ、思いや考えを読み深める学習過程が重要になる。

本論においては、「主体的な学び・対話的な学び・深い学びの視点をふまえた読書指導のあり方」について考察を行う。

## 2. アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の要件

植松雅美は、「主体的な学習」について、次のように述べている。<sup>〔注3〕</sup>

主体的な学習に向けていくには、教科書教材から個々に課題をもたせ、教科書に加え、必要な図書や情報を選び、これらを参考に読み深めながら、課題に関する理解や考え、感想をまとめさせていく必要がある。こうした学習に取り組ませるために、学校図書館を活用させる。①幅広い読書の推進②教材文を詳しく理解し、知識を広げて読むための読書活動③自らの課題を解決する図書活用、の三通りが有効と考える。

植松雅美は、主体的な学習に取り組ませるために、学校図書館を活用した「①幅広い読書の推進②教材文を詳しく理解し、知識を広げて読むための読書活動③自らの課題を解決する図書活用」が有効であると述べている。

このことを読書指導に置き換えると、次のようになる。

「読み広げる」（幅広い読書の推進）

「読み深める」（知識を広げて読むための読書活動）

「読み調べる」（自らの課題を解決する図書活用）

また、「必要な図書や情報を選び、これらを参考に読み深めながら」とあるように、課題解決のために複数の図書や情報を「読み広げ」て「読み調べ」「読み深める」ことも大切になってくる。そのためにも、関連する複数の図書や情報を指導者が用

意することは重要となる。

単元の学習において、これらの読書指導を繰り返すことにより、生涯にわたって自己の成長に役立てる読みができる「主体的な学び・対話的な学び・深い学びを行う読み手」を育てることにつながるであろう。

こうした「読み手」を育てるために必要となる「アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の要件」として、次の3つを提案する。

#### **要件Ⅰ：複数の図書を活用する。**

「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」といった読書のために、学習者の発達段階に合わせた複数の図書を活用することにより「主体的な学び」「対話的な学び」を実現する。

#### **要件Ⅱ：学習過程において他者評価・自己評価を行う。**

「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」という学習活動に対して、他者評価・自己評価を組み入れていくことにより「対話的な学び」「主体的な学び」を実現する。

#### **要件Ⅲ：「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」活動を繰り返し設定する。**

学習過程において、「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」活動を繰り返し設定することにより「深い学び」を実現する。

本論においては、この3つの要件を柱に据えた読書指導の一例として、「本の帯による本の推薦」を具体例として取り上げ、「アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の要件」の有効性について考察していく。

### **3. アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の具現化**

以下、論者も加わりながら展開した平成27年度堺市立新浅香山小学校5年生の授業実践について考察を行っていく。

#### **(1) 3つの要件を柱に据えた読書指導の構想**

##### **要件Ⅰ：複数の図書を活用する。**

5年生になると、自分の生き方や将来について考えるようになってくる。いろいろな人の生き方に興味をもつようになる学習者も多い。今回学習材として取り上げる「伝記」は、個人の生涯にわたる行動や業績を書き記した記録の文章である。「伝記」を読むということは、ある人の人生を知り、新たな知識を得て、自分についても考えるきっかけとなるであろう。先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現である。学習者が様々な人物の生き方に触れることができるよう、複数の「伝記」を用意し、学習過程において、学習者が興味や関心を持ち、主体的に学ぶことができるように配慮した。

今田克巳は、「伝記」について、次のように述べている。<sup>〔注4〕</sup>

伝記は、一人の人間の一生にやり遂げた仕事を書き記したもので、フィクション性を加味したものや、物語的な要素を多く含んでいるものは、伝記から除外されます。人間形成に結びつける面からすると、中学校期や高等学校期の読書材に適しているのですが、小学校中学年に読まれています。

この期の子どもたちが好むのは、その人物の業績が具体的に分かるもので、探検家・英雄・発見家などです。反対に、思想家・宗教家・音楽家などその人物の業績が目に見える形で現れにくい人物は、この期の子どもたちには好まれないようです。

選書するにあたっては、今田の「一人の人間の一生にやり遂げた仕事を書き記したもの」「その人物の業績が具体的に分かるもの」の観点をもとに、次の3点に留意した。

- ①学習者の興味・関心が高まる人物である。
- ②その人物の業績がわかりやすい。
- ③その人物の性格や個性、生き方がわかりやすい。

選書について、稲井達也は、「授業者は教材の内容に関連させ、広い視点で選書することが大切である。ただし、学習の意義を十分に踏まえ、発達段階に配慮した選書が必要である。」<sup>〔注5〕</sup>と述べている。「発達段階に配慮した選書」とあるように、学習者の実態に合わせて、学習に対する意欲・関心を高められるような学習漫画の「伝記」や一冊の中に複数の人物が紹介されているオムニバス形式の「伝記」や現役スポーツ選手の自伝についても複数用意した。図書については、学校図書館だけでは十分ではないため、公共図書館の団体貸出しを利用した。

## 要件Ⅱ：学習過程において他者評価・自己評価を行う。

国語ワーキンググループの審議の取りまとめには、資質・能力を育む学習過程の在り方について、次のように記されている。<sup>〔注6〕</sup>

例えば、「読むこと」の領域においては、「学習目的の理解（見通し）」、「選書（本以外も含む）」、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」、「他者の読むことへの評価、他者からの評価」、「自分の学習に対する考察（振り返り）」、「次の学習活動への活用」といった学習活動を明示している。

「他者の読むことへの評価、他者からの評価」「自分の学習に対する考察（振り返り）」について、注目したい。「他者の読むことへの評価、他者からの評価」は、他者評価、「自分の学習に対する考察（振り返り）」は、自己評価といえるであろう。

発達段階に応じて指導者の評価も含めた他者評価の手助けを得ながらも、自らの

「読み」に対する自己評価力を高めることが重要である。学習者が、自己の学習を振り返り、自らの学習の方向や課題を発見し、さらなる向上をめざすのが自己評価である。

本単元では、自分の読みを確かめ深めることができるよう、学習過程において、それぞれが読み取った内容について伝え合い、他者評価を行う場と他者評価をふまえた自己評価の場を設定した。このことにより、学習者自身が自分の学びについて振り返り、自覚することにより「主体的な学び」を実現することになる。

自己評価は主観的なものとされ、信頼性、妥当性が問題となる場合がある。少しでも信頼性のあるものにしていくためには、他者評価が必要となる。自己評価は自信をうながすものとしての側面も重要であり、せっかくの自己評価が他者評価によって自信をなくすものになってはならないことに配慮しながら、他者評価を自己評価活動に組み入れた。

### 要件Ⅲ：「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」活動を繰り返し設定する

興味関心をもって見つけたおすすめ「伝記」を紹介する活動を通して、「主体的な学び・対話的な学び・深い学びを行う読み手」を育てることができるであろう。

本単元における「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」活動は、次のように展開した。

「読み調べる」⇒自分のおすすめの「伝記」を紹介し合うために、「伝記」を読み、叙述から紹介したいことを探し出すこと。「読み深める」⇒本の内容を要約するために、読み取ったことを伝え合うこと。「読み広げる」⇒おすすめ「伝記」を選ぶために、いろいろな「伝記」を読むこと、友達からすすめられた「伝記」を読むこと。

読み取ったことを伝え合う場面では、一人一人の読みが見えてくる。共感したり、相違点に気づいたりすることで、さらに「伝記」への関心が高まるであろう。これらの活動を繰り返し行うことにより、「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」になるように工夫した。

## 4. アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の実際

授業の概要は、次のとおりである。

〈対象〉堺市立新浅香山小学校 5年生47名

〈日時〉平成27年6月26日～7月10日

〈単元名〉「本の帯」をつくってお気に入りの「伝記」を推薦しよう

〈学習材〉教科書教材「百年後のふるさとを守る」+『ヘレンケラー』『野口英世』『スティーブジョブズってどんな人?』『イチロー 努力の天才バッター』『ジュニア版 NHK プロジェクト X』『U・ボルト』など55冊

〈単元の指導目標〉

- 複数の本や文章を読んだ中から、薦めたい本を選ぶこと。(読むこと カ)
- 本や文章を読んで人物像を考え、発表し合うことにより、自分の考えを広げ

たり深めたりすること（読むこと オ）

〈単元の指導計画〉全9時間

学習過程	次	時	学習活動
読み広げる 読み調べる	1	1	指導者の作成した「本の帯」を示し、単元の学習を通して行う言語活動について見通しをもつ。
		2	複数の伝記を読みながら「本の帯」で推薦したい伝記を見つける。
読み調べる 読み広げる 読み深める	2	3	浜口儀兵衛のしたことを読み取った後、選んだ伝記の人物のしたことを読み取る。
		4	浜口儀兵衛の考えや思いを読み取った後、選んだ伝記の人物の考えや思いを読み取る。
		5	浜口儀兵衛の「その人らしい言葉」を考えた後、選んだ伝記の人物の「その人らしい言葉」を考える。
		6	浜口儀兵衛の人物像を考えた後、選んだ人物の人物像を考える。
		7	今までに学習したことから「百年後のふるさとを守る」のキャッチコピーを考えた後、選んだ伝記のキャッチコピーを考える。
読み深める 読み広げる	3	8	選んだ伝記の「本の帯」を作成する。
		9	「本の帯」を巻いた作品を友達に推薦し、互いに評価し合う。

〈単元の特徴〉

本単元では、「お気に入りの伝記を「本の帯」にして推薦する」ことを設定した。この言語活動は、「C読むこと」の言語活動例「エ本を読んで推薦の文章を書くこと」を具体化したものである。第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導項目「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」に重点において指導した。

「本の帯」とは、本を販売する際にその本の魅力や読みどころを記載して巻きつけた宣伝媒体である。ここで取り上げる「本の帯」は、読んだ作品を多くの人に推薦する目的で作成するものであり、「本の帯」には、自分で選んだ本を推薦する「その人らしい言葉」「人物像」「キャッチコピー」などを記入した。限られたスペースの中で記述するために、凝縮された考えを示すこととなる。そうすることにより、優れた作品について自分の考えを端的にまとめる言葉の力がつく。

また推薦するためには、その作品についてよく認識することが必要である。そして、実際に完成させた「本の帯」を巻いた本を展示して、他者評価を得られる場を設定し、読み手を意識して書き方を工夫できるようにした。

教科書教材「百年後のふるさとを守る」は、「稲むらの火」に登場する浜口儀兵衛の生き方を描いた伝記であり、物語のように書かれた部分と、事実の説明や筆者の考えが書かれた部分とで構成されている。儀兵衛のふるさとを守りたいという強い思いについては、その言動や考え方から読み取ることができる。そして、読み取ったことをもとにして、儀兵衛の行動や考え方、生き方について自分と比べながら考

えることができる。また、友だちの考えを聞いて交流することにより、自分の生き方についての考えを広げたり深めたりすることができるだろう。さらに、この学習を通して他の人物の伝記も読み、いろいろな生き方を学び、幅広い読書活動へとつなげ「主体的な学び・対話的な学び・深い学びを行う読み手」を育てるのである。

## 5. アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の考察

学習の流れにそって、考察する。

### 第1次「読み広げる」「読み調べる」

その人物を知りたいと思うことは、主体的に伝記を読んでいくことにつながる。導入では、「百年後のふるさとを守る」の浜口儀兵衛に興味をもたせるために「稲むらの火」の読み聞かせを行った。浜口儀兵衛の機転のよさが伝わり、津波後の事業を知りたいという関心が高まったようである。

そして、興味を持って伝記を「読み広げる」ことができるよう、学校図書館や公立図書館から借り出した「伝記」等について、ブックトークにより紹介し、学級に置いておき「本の帯」を書いてみたい本を選択することができるようにした。

また、学習者が「本の帯」のイメージをもてるように、指導者の選んだ「伝記」について「本の帯」を使って紹介した。「本の帯」に対する学習者の興味・関心を高め、積極的に「読み調べる」ことにつながった。

第2次「読み調べる」「読み広げる」「読み深める」

伝記は、学習

### 【資料1】読み取りワークシート（左部分）

百年後のふるさとを守る 作者【 河田 恵昭 】 出版社【 光村図書 】	
○儀兵衛がしたこと <u>村人のために自分のお金を出した。</u> <u>堤防をつくったこと。</u> <u>積みわりに火をつけたこと。</u>	<u>村を出ていこうとする人を止めた。</u> <u>松の木を植えた。</u> <u>村を巡回した。</u>
○なぜ、そのようなことをしたのか ・ <u>村人を救うため。</u> ・ <u>安心してくらせるように</u> <u>するため。</u> ・ <u>村人の希望取りと</u> <u>百年後のふるさとを守るため。</u> ・ <u>自分</u> <u>村の方が大に力がかつ。</u> ・ <u>外を向こうとして</u> <u>村人を止めるため。</u> ・ <u>次のじい</u> <u>がえるため。</u> ・ <u>津波や</u>	○その人らしい言葉 <u>どつぱれは村人たちに希望と</u> <u>やるのか、どうすれば村人たちは村に</u> <u>と完成させる</u>
○人物像（どういう人か） ・ <u>自分より村や村人たちの方が大切</u> <u>思いやりのある人。</u> ・ <u>ど</u> <u>努力した人。</u> ・ <u>村人</u>	
○キャッチコピーを考えてみよう <u>あなたはつらい時でも、人の事を考える</u> <u>事ができますか？</u>	

者にとって初めて学習するジャンルである。そこで、描かれた人物の行動や言葉、業績に視点を絞って読ませることにより、描かれた人物の生き方や考え方を読み取ることができるようにした。特に、人物の生き方がわかる言葉や場面の様子や行動を端的に表す言葉に着目させた。

まず、教科書教材「百年後のふるさとを守る」を読み、「人物の業績」「人物の考えや思い」「お気に入りの一文」を読み取った。次に「人物像」「関心を持ってもらえるようなキャッチコピー」を考えた。

ワークシート【資料1】を活用し、1時間の前半は全員が「百年後のふるさとを守る」について学習し、後半は、学習者が選んだ「伝記」について読みを深めた。そうすることによって、学習したことをすぐに自分の読みに生かすことができた。

一人では読み取りが難しい学習者もいるので、グループ（4人）で読み取ったことを交流する場

を設定した。「人物がしたこと」「なぜ、そのようなことをしたのか」「その人らしい言葉」「人物像」の観点に対して、個人で考えた意見を付箋に書き、分類しながら交流し、自分の考えを広げたり深めたりする機会を多く設定した。「読み深める」学習過程である。学習者同士の考えの共通点や相違点を検討する時間を十分に確保し、人物の生き方や考え方をとらえる際の根拠となる文章の違いや、同じ文章を根拠に

【資料1】読み取りワークシート（右部分）

本題名 <u>ヘレン・ケラー</u> 作者 <u>山口正重</u> 出版社 <u>ポプラ社</u>	
○人物がしたこと <u>マサチューセッツ州の大学に入学した</u> <u>きょうかくしてくれた少女におれをいよ</u> <u>いまでもおおくの人々につたえ</u> <u>目のふじゆうなひとたちのために</u> <u>ようと、日本のあちこちをあるき</u> <u>かつやくした。</u> <u>まわった。</u>	○その人らしい言葉 <u>ハーバード大学にまわった</u> <u>い、目のふじゆうなひと</u> <u>のあれについて、どうどうおはなす</u> <u>ことができます。日本の人は、</u> <u>とてもしんせつでやさし</u> <u>かった。どうして、あんな</u> <small>いのかしら。だから、おれが、あんなのひまのうに、あんなに、あんなに、あんなに。</small>
○なぜ、そのようなことをしたのか <u>戦争のためにあはれずんだ</u> <u>ひとのこころになぐさめの</u> <u>神のこころをつたえるため</u> <u>目のふじゆうなひとたちを幸せ</u> <u>にする会をつくりたいという</u> <u>手がみかびきたから。</u>	○人物像（どういう人か） <u>目の不自由な人の幸せについてどうどうおはなすことが</u> <u>できるしんせつでやさしい人。</u> <u>自分を信じて一生懸命がんばった人。</u> <u>マサチューセッツ州の目のふじゆうな人々を救った人。</u>
○キャッチコピーを考えてみよう <u>目も耳も口も不自由な人々のために光をなげ</u> <u>かけた思いやりのある女の物語！</u>	



している場合でも生き方や考え方のとらえが違うことに目を向けて話し合いを進めることができるようにした。語彙が少ない学習者や表現力が乏しい学習者は、他の学習者の意見を聞くことによって手がかりを増やすことができた。また、意見の交流を行うことによって、自分の意見に自信をもったり、自分の考えを深化させたりすることにもつながった。主体的な学び・対話的な学び・深い学びを行うことができたといえよう。その後の読書生活にも活用できるであろう。

### 第3次「読み広げる・読み深める」

学習者自身が選んだ「伝記」の「本の帯」【資料2】を作成した。「本の帯」に書きたい言葉に赤線をつけた後、キャッチコピーを考え、そのキャッチコピーについて他者評価を行った。他者評価は、学習者同士が互いの考えを伝え合い、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」である。

例えば、【資料1】のワークシートを書いた学習者は、自分のまとめを振り返り「堤防をつくったこと」「積みわりに火をつけたこと」「村人の希望を取り戻すため」「百年後のふるさとを

【資料2】資料1のワークシートを書いた学習者が作成した「本の帯」



守るため」「なんとしても堤防を完成させる」「だれよりも情熱的な人」に赤線をつけた。そして『百年後のふるさとを守る』の作品について「あなたはつらい時でも、人のことを考えることができますか？」というキャッチコピーを考え、それに対して、「『つらい時でも』という言葉を使ったのがすごいと思いました。感情が伝わってくる。」「自分ならどうするだろうと思ってひきつけられると思う。」という他者評価が届けられた。これをふまえて学習者は、「自分ならと考えてもらえたので、問いかけにしてよかったと思う。」と自分の言葉の使い方について振り返っている。

同じ学習者が選んだ『ヘレンケラー』の作品については、「目のふじゆうなひとたちのためにかつやくした。」「戦争のためのあれすさんだ人のところに、なぐさめの神のころをつたえるため」「目のふじゆうなひとのしあわせについて、どうとはなすことができます」「マサチューセッツ州の目のふじゆうな人々を救った人」に赤線をつけた。そして「目も耳も口も不自由な人々のために光をなげかけた思いやりのある女の物語!」というキャッチコピーを考え、それに対しては「『光をなげかけた』という言葉がいいと思う。」「『人々のために光をなげかけた』という言葉にひきつけられる。」「『思いやりのある女』というところが想像できるのでいいなと思った。」という他者評価が届けられた。これをふまえて学習者は、「『伝記』の内容が伝わる言葉を考えてよかった。」と振り返った。内容をしっかり読み取り考えた言葉が、相手をひきつけることを実感することができたようである。このような他者評価をふまえた自己評価を繰り返すことにより、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現するのである。

学習者は、自分の思考の過程を振り返り、自分が理解したり表現したりした言葉を精選して、【資料2】にあるように「目も耳も口も不自由な人々のために光をなげかけた思いやりのある女の物語!」「目の不自由な人の幸せについて、どうどうと話す事ができます!」「自分を信じて一生懸命がんばった人!!!」という言葉を選んだ。「自分を信じて一生懸命がんばった人!!!」には、赤線はついていなかったが、作品を読み深めて考え直したことがわかる。言葉を精選していく過程において、自分の思いや考えを広げ深める「深い学び」が可能となる。

できあがった「本の帯」は、その本に巻き、互いに評価し合った。「読み広げ」ながら「読み深める」のである。その後、たくさんの児童が目に触れやすい職員室前廊下に展示し、異学年による他者評価を目的に、全校児童と教師の投票による「本の帯」コンクールを実施した。投票用紙【資料3】には、どの本が読みたくなったかを選び、その理由も書くことにした。特

に「どの言葉に心がひかれたのか」を書くことにより、本を推薦する言葉について振り返ることができる。1・2年生用の投票用紙は平仮名にし、担任が説明した後、投票用紙を書いた。こうしたことも、形を変えた「読み広げ」ということができよう。他学年の児童や教師から評価が届けられ、他の児童の選書に役立つことを深く感じさせることができ、学習意欲の向上につながった。

また、他学年の児童は、「本の帯」を読むことを通して、「伝記」に興味を持ち、読書の幅を広げることにつながった。そして、自分たちも、おすすめの本の紹介を「本の帯」に書いてみたいという興味関心を高めることができたに違いない。

さらに、他者評価の一環として、大阪読書推進会と朝日新聞大阪本社との共催で実施されている「本の帯創作コンクール」に出品した。

最後に、学習活動に対する振り返り（自己評価）を行った。「本の帯」作りの観点を5段階評価し、「どのような力が身についたのか」を振り返った。【資料4】

「今回の学習を通して、どのような力が身につきましたか」という質問に対して、「人物のことを読み取る力」「読解力」「説明力」「人物の思いや考えを読み解く力」「短くまとめる力」「キャッチコピーを考える力」が身についたと答えた学習者が多かった。「本の帯」を作成する学習を通して、「読み調べる」「読み広げる」「読み深める」を繰り返して行うことにより、学習が定着したことがわかる。

「はがき新聞でもくわしく書かないといけないけど、人物の事を読む力、考える力、見る力、読み取る力が、人物の事を考えるとき必要なので、身についたと思う。」からは、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現したこ

### 【資料3】「本の帯」コンクール投票用紙

「本の帯」コンクール 投票用紙

(5) 年生 名前 ( )

29

「本の帯」を読んで、読んでみたくなった本の番号を書いてください。

読みたくなった理由を書きましょう。どの言葉に心がひかれたのか。  
うらかわに書いてある実たちが心を  
ひきました。そしてみなさんがしらない一生  
があきらかになる。というのは私私  
7777します。

【7月10日（金）締め切り！一人一票です！！】

とがうかがえる。

「あまり伝記の本を読んでいたなかったので、伝記を読んで人のしたことを知るのがおもしろかった。伝記ってこんなにおもしろいことを知りました。」「伝記への興味がわいた。」「今までは伝記を読まなかったけど、読んでいくうちに楽しくなった。」からは、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できたことがわかる。

「伝記を最後まで読んで、初めに読んで思ったことと、最後に思ったことがちがうからいろいろな想像や思いができる。そういう力が身についた」から、思いを基に構想、想像したりすることに向かう「深い学び」が実現できたといえよう。

#### 【資料4】学習の振り返りシート

「本の帯」をつかってお気に入りの伝記を推薦しよう

5年( )組 名前( )

\*「本の帯」づくりの学習を振り返り、身についた力を確認しよう。

5段階評価を記入しよう。

5…大変よくできた 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった  
1…できなかった

	5段階評価
「人物がしたこと」を読み取ることができた。	4
「なぜ、そのようなことをしたのか」を読み取ることができた。	5
「その人らしい言葉」を読み取ることができた。	5
「人物像(どういう人か)」を読み取ることができた。	5
キャッチコピーを考えることができた。	3
文字をていねいに見やすく書いた。	5
デザインやイラスト(色づかいやバランス)を工夫した。	5

\*本の帯を見て、読んでみたくなった本の題名を書いてください。

ウォルト・ディズニ－  
アリになったカメラマン

\*今回の学習を通して、どのような力が身につきましたか。

はかき新聞でもくわしく書かないといけないけど、人物の事を読む力、考える力、見る力、読み取る力、人物の事を考える時必要な力、身についたと思う。

## 6. アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の有効性

アクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導の有効性は、次のようにまとめることができる。

### (1) 要件 I：複数の図書を活用する。

先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の視点をふまえ、生き方やその人の言葉から学ぶものが多い人物の「伝記」を活用した。初めて「伝記」を読む学習者もいるので、生き方やその人の言葉から学ぶものが多い人物を選び、漫画の「伝記」作品や一冊の中に複数の人物が紹介されているオムニバス形式の「伝記」や現役スポーツ選手の自伝についても複数用意したことにより、選択の幅が広がり、それぞれの興味関心を引き出すことがで

きた。様々な人物の生き方や考え方と、これまでの自分の経験や考え方をかかわらせて見つめ直し、今後の自分自身の生き方を考える契機となったようである。

## (2) 要件Ⅱ：学習過程において他者評価・自己評価を行う。

自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の視点をふまえ、学習過程に他者評価・自己評価を位置づけた。特に、評価の観点に基づいた学習者同士の伝え合いを通じた評価活動という「対話的な学び」を繰り返すことにより、学習過程に他者評価・自己評価を位置づけることになり、学習者が学習課題を発見し主体的に学ぶことができた。

## (3) 要件Ⅲ：「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」活動を繰り返し設定する。

読み手がその「伝記」を読んでみたくなるような情報を考えるためには、何度も「伝記」を読み返し、自分の考えたその「伝記」のおもしろさや魅力を伝え合って他者がどのように感じるのかを探りながら、「本の帯」を作成していく必要がある。学習過程に「読み調べる」「読み深める」「読み広げる」活動を設定したことは、自己の考えを形成したり表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」につながった。

## 7. まとめ

今回は、おすすめの伝記を「本の帯」にして推薦する学習を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」といったアクティブ・ラーニングの視点をふまえた読書指導を展開した。「伝記」を読むことにより、様々な人物の生き方や考え方と、これまでの自分の経験や考え方をかかわらせて見つめ直し、自分自身の生き方について考える契機になり、幅広い読書へつながった。

今後の課題としては、学習者の発達段階に応じた読書指導の重点化を図ることである。系統的な読書指導計画を立て、「主体的な学び・対話的な学び・深い学びを行う読み手」を育てていきたい。

## 注

- 1) 中央教育審議会「教育課程部会 国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」平成28年8月26日 17頁
- 2) 中央教育審議会「教育課程部会 国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」平成28年8月26日 11頁
- 3) 植松雅美「能動的に取り組む学校図書館活用と国語科の授業」『月刊 国語教育研究』（「日本国語教育学会」編）No.519 2015年 5頁
- 4) 増田信一編著『学び方を養う 学校図書館 司書教諭の職務とサービス』2000年170-171頁
- 5) 稲井達也「国語科の授業における学校図書館の活用」『月刊 国語教育研究』（「日本国語教育学会」編）No.519 2015年 27頁

- 6) 中央教育審議会「教育課程部会 国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」平成28年8月26日 6頁

### 参考文献

- 堀江祐爾著『国語科授業再生のための5つのポイントーよりよい授業づくりをめざしてー』明治図書 2007年  
立田慶裕編著『読書教育の方法ー学校図書館の活用に向けてー』学文社2015年  
国立教育政策研究所編著『読書教育への招待ー確かな学力と豊かな心を育てるためにー』東洋館出版社 2010年  
杉本直美『自立した読み手が育つ 読書生活デザインカー子どもが変わる読書指導ー』東洋館出版社 2010年  
水戸部修治『単元を貫く言語活動 授業づくり徹底解説&実践実例24』明治図書 2013年

追記：本実践は、堺市立新浅香山小学校の石木進一先生、宮元茜先生に多大なる協力をいただいた。厚く感謝申し上げたい。

(とくなが かよ・堺市立新浅香山小学校)